

連載

古今東西  
見逃せない  
研究論文・書籍

1

## Evidence-based Cognitive Rehabilitation : Updated Review of the Literature from 2003 Through 2008

Cicerone KD, et al : Arch Phys Med Rehabil 2011 ; 92 : 519-530

渡邊 修 東京慈恵会医科大学附属第三病院

### ■ 意義

脳卒中および脳外傷に起因する高次脳機能障害に対する認知リハビリテーション治療は、従来、経験則で行われてきた。本研究は、その効果を膨大な文献をもとに科学的に検証し、米国リハビリテーション医学会発行のガイドラインを作成するうえで基礎となっている研究論文である。

### ■ 要旨

本研究は、Cicerone らが以前より積み重ねてきた認知リハビリテーション治療のエビデンスに関するデータベースに、さらに 141 論文を選択し、この中で 112 論文を検討し、新たなエビデンスを提示している。すなわち、脳外傷後の注意障害、記憶障害、社会的コミュニケーション障害、遂行機能障害に対するリハビリテーション治療の効果には強いエビデンスが示され、包括的全人的リハビリテーション治療の効果も明らかとなった。さらに、脳卒中による右大脳半球損傷後の視空間機能障害に対するリハビリテーション治療、左半球損傷後の失語症および失行症に対するリハビリテーション治療の効果も文献的に支持された。

### ■ 解説

認知リハビリテーション治療の効果に関するガイドラインは、欧州では神経学会から、他に、スコットランドやニュージーランド、カナダでも提出されてきたが、米国では、Cicerone らの本研究が主体となっている。

その結果、注意障害に対しては、直接的注意訓練や注意障害を補償するためのメタ認知訓練、time pressure management や ADL への般化訓練の効果が確認された。また、半側空間無視に対

しては、さまざまな訓練の中でも視覚探索訓練が最も推奨された。

失語症に対しては言語聴覚訓練やグループ訓練の効果が、脳外傷後の社会的コミュニケーションに障害のある例に対しては実践的なコミュニケーション技術訓練の効果が確認された。

一方、記憶障害例は、軽度な場合は、内的あるいは外的な記憶の補償技術の習得が勧められ、重篤な場合は、メモ、スケジュール表などの外的補助手段の活用訓練が勧められた。また、エラーレスラーニングの効果が再確認された。

遂行機能障害に対しては、メタ認知的方略訓練（自己モニタリングなど）および goal management training、さらにグループ療法が効果的であることが示された。

さらに、脳外傷者に対し、多職種による、全人的 (holistic)、包括的 (comprehensive) リハビリテーション治療は効果的であるとする、エビデンスの高い報告がある。こうしたリハビリテーション治療の体制は、患者および家族に対し、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士、ソーシャルワーカー、職業訓練職、ケアマネジャーなどが、身体面、認知面、心理面、経済面などについて、包括的にかかわることにとどまらず、統合された治療環境における、個人療法あるいはグループ療法による、認知機能の改善のみでなく、自己認識の向上や対人関係のスキルアップ、感情のコントロールにも焦点を当てている。

わが国では、高次脳機能障害に対する認知リハビリテーション治療は、医療機関で行われる回復期以後は、地域で展開されている。その効果を、今後検証することが求められている。